

平成26年12月25日開催

# 教育委員会会議録

福知山市教育委員会

- 1 開会の日時 平成26年12月25日(木)  
午後1時30分
- 2 閉会の日時 平成26年12月25日(木)  
午後4時38分
- 3 招集の場所 市民交流プラザふくちやま 4-1会議室
- 4 出席委員の氏名 倉橋 徳彦  
瀬田 眞澄  
大槻 豊子  
塩見 佳扶子  
荒木 徳尚
- 5 福知山市教育委員会会議規則第4条により列席したもの  
教 育 部 長 池 田 聡  
教 育 委 員 会 事 務 局 理 事 坂 本 幸 彦  
教 育 総 務 課 長 眞 下 誠  
教 育 総 務 課 参 事 藤 田 一 樹  
次 長 兼 学 校 教 育 課 長 芦 田 誠  
学 校 教 育 課 指 導 主 事 足 立 郁 郎  
次 長 兼 生 涯 学 習 課 長 崎 山 正 人  
生 涯 学 習 課 参 事 横 山 尚 子  
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長 芦 田 收  
中 央 公 民 館 長 田 中 久 志  
図 書 館 中 央 館 長 塩 見 英 世
- 6 福知山市教育委員会会議規則第15条による会議録作成者  
教 育 総 務 課 長 眞 下 誠
- 7 議事及び議題  
別添のとおり

8 質問討議の概要

別紙会議録のとおり

9 決議事項

な し

福知山市教育委員会会議規則第15条により署名する者

平成 年 月 日

福知山市教育委員会 委員長

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

教育委員会会議録調製者 教育部長

# 教育委員会会議録

## 1. 開会

倉橋委員長が開会を宣告。

## 2. 前回会議録の承認

11月に開催しました教育委員会会議録について、出席委員全員異議なく、承認されました。

## 3. 教育長報告の要旨

荒木教育長から以下の報告がありました。

### ①公文書開示請求について

平成27年度以降使用する中丹地区小学校教科書の採択に関し、採択協議会での全教科書の教科書選定委員一覧、採択協議会メンバーと日程、全教科の教科書採択理由について、平成26年11月27日に開示請求がありました。請求者は、京都市内在住の方です。このことについては、本市の情報公開条例第11条第1項の規定により、平成26年12月11日に公文書開示決定通知書を発行し請求の文書の写しを交付いたしました。

### ②修斉小学校校長の交通事故に伴う対応について

校長が起こした事故を受けて、先月の非公開での教育委員会会議で確認していただいた市教委の対応方針に沿うような形で、府教委も対応をしていただいております。詳細は、人事や個人情報も関係しますので、後ほど非公開の協議会で報告させていただきます。

### ③「仮称：教育支援センター」について

本市の「第4次総合計画」に、教育の拠点となる「仮称・福知山市教育振興センター」を検討することがあげられています。これを受けて教育委員会事務局は、その具体化を検討してきました。そして、一時は教職員の研修までできるような総合的な施設の建設も想定しておりましたが、アセット・マネジメントの観点から、つまり多くの市の所有する建物・施設等の今後のあり方を考える上で、適応教室・教育相談等の機能を重視した「仮称：教育支援センター」として、現在の建物を改築する方向で進めていくことを教育委員会会議で報告してきました。しかし、資産活用の観点から、今多くの費用をかけて、改築しておきながら、10年後にまた改築するという心配が伴うため、改めて場所・構造等も含めて、再検討をしてはどうかという意見が市長部局からあり、再検討も必要になると考えています。部長が、経営戦略会議に出席しておりますので、部長からもこのことについて報告させていただきます。

### ④平成26年第4回福知山市議会に係る報告について

平成26年12月1日から22日の間行われた市議会定例会の本会議、文教建設委員会において、審議いただいたなかの教育委員会に関する内容を資料により報告いたします。すべてを申し上げていきますと大変な時間を要しますので、答弁内容は各自でお目通しください。

まず1ページ目ですが、藤田議員から児童・生徒・園児等に対する安全安心確保対策において放課後児童クラブの充実に関する御質問がありまし

た。4月から所管替えとなった見解を求める内容や安心安全の確保対策を含め今後の充実に向けた予定やクラブの充実における課題等をどう分析するかといったものでした。昔の濃密な地域社会が薄れるなかで、放課後児童クラブを新しい地域の創出と位置づけて子どもたちが学びふれあい自主性や社会性を養う場としていきたいと思えます。

次に4ページからの芦田眞弘議員の質問は、教育委員会行政について、一つ目に研究指定を受けた学校の取組みの状況やその効果についておたずねされました。二つ目はいじめ防止の取組み状況についての御質問でした。福知山市においては、大きないじめだけを捉えるのではなく、見落としがちな軽微なものもいじめにつながる「いじめの芽」として捉え、しっかり把握・対応することが大切だと考えております。また、芦田議員から本市における「いじめ防止」に関わる取組み、学校での取組みについて、またSNSを巡るトラブルの未然防止に関する御質問がありました。

森下賢司議員からの質問は少子化や人口減少への対策について、深刻化する少子化・人口減少を抑制する方策への考え方を問われるものでありました。この御質問については、市長公室からお答えさせていただきました。18歳から25歳までの若者が多く大都市圏へ流出している状況にあり、どうすれば留まらせることができるのかあらゆる面から環境整備を図る必要があるということです。また「婚活」イベント、街コンなどへの支援状況と民間へのこれからの支援のあり方、方向性についてもご質問がありました。さらに定住促進のために「給食無償化」の質問を以前されたことについて、改めてどのように考えるかをおたずねされました。教育部長から確かに学校給食費の無償化は、子育て世代にとって家計の負担軽減というメリットがあり、定住促進への一つの方策ではありますが、世代間の公平性も含め、十分な政策議論が必要であるという答弁にとどめさせていただいております。

次に13ページですが、木戸議員から川合小学校の統廃合について、統合に向けて両小学校の交流状況と諸課題をおたずねされました。本市においては、学校教育の最重点施策であるシームレス学園構想の具現化に取り組んでいますが、特に三和地域内においては、従来から小中学校相互での連携授業を年間、通して行っているほか、社会見学や海の体験教室、修学旅行など多くの学校行事での連携もあり、児童・生徒のつながりは、一層強固になっています。保護者相互の親睦を図るため、合同授業を実施し、参観したり、学級集会や学校説明会にも参加いただいております。現段階では、統合に関し問題はないと考えていますが、環境が変わると有形無形の影響を受けることもあるので、統合後はもちろん今後も注意深く見守っていきたいと思えます。また、川合小学校の跡地利用については、福祉保健部長から答弁されています。

16ページから文教建設委員会で芦田眞弘議員が私立幼稚園就園奨励費補助事業について、まず次年度以降はどうなるかという御質問をされました。私立幼稚園の2園は統合予定であり、統合後1クラスの園児数を30人から35人に増やす計画があります。そして子ども・子育て支援新制度への移行については、来年度に移行する予定はないと聞いておりますので、次年度においても本事業により対応をしていくこととなります。そのほかにも私立幼稚園では通園が広域でバス通園の園があるが、この費用も含まれているのかというおたずねがあり、これに対し、保育料と入園料が対象であり、私立幼稚園においてのバスでの送迎はオプションにあたる部分であり、送迎費用は含まれないとお答えしております。また、公立との負担

に違いがあるかという御質問もされています。

45ページの「教育予算の増額、保護者負担の軽減を求める請願」、48ページの「先生が子どもたちに向き合う時間を確保し、教育の充実をすすめるための教職員の増員を求める請願」については、不採択となりました。

倉橋委員長 「経営戦略会議」の補足を教育部長からお願いします。

池田教育部長 「経営戦略会議」は今年度、市長部局でつくられた会議です。伊東副市長をトップにメンバーは市長公室長、地域振興部長、財務部長、農林商工部長、福祉保健部長です。そこで話し合われる内容は市の行財政の重要施策について審議して、その基本方針を確認共有することにより市政の重要な政策決定を支援するということが目的です。

「仮称：教育支援センター」についても、当初の予定では平成26年度、勤労青少年ホームを改造して支援センターにするということで実施設計の予算を組んでおりました。そして、27年度で改築工事を実施するという予定でした。ところが、今年度に公共施設のマネジメント計画を市全体でつくるなかで、市民一人当たりの公共施設の面積が、全国平均の1.7倍であり、今の状態であれば、維持管理費がかさみ、財政破たんにつながりかねない状況にあることから、公共施設の整理をしていく必要が生じている現状です。この計画を作る前は、勤労青少年ホームを改修して使う予定でしたが、仮にこの勤労青少年ホームを直して使うとしても昭和51年に建てられた施設ですので、多額の費用を投じて直したところで、そんなに長くもたないだろうというマネジメント計画の考えから、新築して長く使える方が得策ではないかということです。まだ「経営戦略会議」で方向性がでたわけではありませんが、直して使うのがよいか、またまったく別の場所に新たに建てたほうがよいか、それとも今ある施設を使ったほうがよいか、いろいろな選択肢をもって検討するようにと指示がでています。ただ、市全体でどんな施設が利用できるかは、教育委員会では分かりませんので、資産活用課で候補をあげていただき、どうするか検討していくこととなります。

倉橋委員長 4つのことについて報告をいただきました。御質問、御意見はありませんか。

瀬田委員 教育支援センターについて、説明を受けておおよそのことは分かりました。

例えば、各事業部が懸命に政策を立案し、予算も確保できた段階で、経営戦略会議で待ったがかかった場合、各事業部の政策立案意欲が無くなるのではないかと危惧します。

荒木教育長 教育委員会制度の形骸化が取り上げられるなか、教育委員会の機能をしっかり果たさなければならないときに、教育委

員会は独立した執行機関であることを部長から経営戦略会議で伝えていただいております。

池田部長

教育委員会においては、教育委員会会議での決定が重いことを2回目の会議で説明をしました。

他の市長部局も新しい施設を建て替えたい場合は同じ状況にあります。今年は予算要望の際に、資産活用課も入り政策予算のヒヤリングを行っています。これにより市全体でどのような施設の活用ができるかを把握していこうとしております。

倉橋委員長

二つ質問をいたします。一つ目は、今年度予算の実施設計はどうなるのですか。二つ目は、経営戦略会議において教育支援センターの必要性はどのように考えておられますか。

池田部長

まず、二つ目の質問からお答えいたしますが、必要性については、副市長以下、委員の皆さんには理解いただいております。一つ目については、実施設計については行っておりますが、今後どうしていくかは検討していくこととなります。

荒木教育長

これは大きな問題です。教育委員会会議で了承もされておりますのに、方向を変え得ることになるかもしれません。状況を都度、報告させていただいて、御意見をいただきながら経営戦略会議に反映させていきたいと思っております。

倉橋委員長

次に議題へ移ります。

#### 4. 議事

##### (1) 議第28号(平成27年度学校教育の重点について)

##### 足立学校教育課指導主事

最初にこの見本はモノクロですが、配布するものはフルカラーにしたいと考えています。教師が手元においてすぐに活用できるように目を引き、心が温まるものになるようにと考えています。写真については、9ブロックと幼稚園の写真が入っています。それぞれの平成26年度のブロックの重点的な取り組みの様子を載せています。表紙をみていただくと「歌声でつながろう 大江ブロック」の小中学生、保護者の方が一緒に歌っているところの写真です。右側は南陵ブロックの幼稚園と小学校の交流の写真です。開いていただいたところには、「元気いっぱい 幼稚園」ということで幼稚園のつどいの写真を載せています。また右上には、成和ブロックの自分たちで作ったお弁当の写真など、全部のブロックの写真をいれております。これらの写真は、ブロックの取り組みの象徴を表し、次年度の活動の指針にしたいと考えております。

表紙にもどってください。表紙には、福知山市の教育目標と京都府のはぐくみたい力をひとつの円のなかに記しています。その円のなかに、福知山市の教育目標の内容を具体的に

書いています。これを書いたことによってそれぞれの学校教育計画のなかに活かし、より具現化を図っていこうというねらいがあります。その下側には「教育のまち福知山」の解説を載せております。すべての教職員が福知山市の歴史を十分理解して、豊かな教育を実践できるようにと思っております。

内容の説明に入る前に、まず福知山市の学校教育改革プログラムは平成22年12月にパブリックコメントをもとに作られました。平成23年度から27年度までが前期計画となります。27年度には、この前期計画の総括を行い、見直していくこととなりますので、今回の学校教育の重点の内容については、この前期計画をもとに進めておりますため、文言の訂正が中心となっております。

表紙を開いていただき、さらに開いていただきますと大きな柱となる6項目を掲げております。まず左の『確かな学力を育てる教育の推進』ということで、シームレス学園構想を学びのなかでどう具現化していくかということや府の学力診断テストや全国学力学習調査などを活用して、学力の状況を把握し授業改善をすすめていくことをあげています。また今年度加えたところは、2つ目の黒丸の2行目のところです。

「見えない学力『コミュニケーション力・主体性・協調性』」を新たに加えました。見える学力だけでなくこの見えない学力を大事にしていくことが福知山教育の大事なところだと思っておりますので強調させていただきました。去年は確かな学力を『育む（はぐくむ）』となっておりましたが、今回は『育てる（そだてる）』に言葉を変えております。これは、あいまいな表現ではなく、文言をはっきりさせ、教師の責任を明確にしました。

2つ目は『一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばす教育の推進』ということです。主に希望進路の実現と特別支援教育の推進です。

3つ目は、『豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進』です。ここも去年は『育む（はぐくむ）』となっていたところを『育てる（そだてる）』に変えております。道徳教育、人権問題、生徒指導上の問題、同和問題、社会的規範を身に付けることをあげております。

4つ目は、『健やかな体を育てる教育の推進』です。健康安全教育、食育、防災等を重点的に進めることにしております。去年、食物アレルギー対応の手引きを配り活用していただいておりますが、来年もさらに活用していくということと、昨年度、児童生徒に配布した防災テキストについても活用しながら実践をすすめていこうと考えています。

5つ目は、『社会の変化に対応する教育の推進』です。環境、情報、国際化をあげています。特に情報については、SNS等で被害に遭わないよう情報モラルについて指導を充実していきたいと考えています。

最後に『魅力ある学校・園づくりと教職員の資質能力の向上』です。教職員の世代交代がどんどん進んでおりますが、そのなかで優れた教師力が剥離現象を起こさないようにその



力を引き継いでいけるよう指導を充実していきたいと思っております。子どもの教育環境の中で最も大切なものは教師であるという視点に立って、さらに教師力を高めていけるよう進めていきたいと考えております。

この下に27年度の重点項目を5つあげております。

閉じていただいて内側の見開きのところですが、左上に保幼小中一環・連携教育計画ということで、シームレス学園構想図をあげております。下側には学びの内容ということで、「幼児期」、「小1・2・3・4」、「小5・6・中1」、「中2・3」にわけて、確かな学力、豊かな心、健やかな体、家庭や地域社会とのつながりという4つの観点で整理をしております。

最後の裏のページは、『福知山の子ども姿』です。平成26年4月22日に実施しました全国学力・学習調査の質問紙の中から昨年同様の4点を取り上げ、グラフ化しております。ここには、重点的に取り組んでほしいメッセージが込められています。前回と比較しますと「学校や授業時間以外に普段一日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」という設問において、小6は伸びていますが、残念ながら中3は下がったという結果になっております。「家や図書館で普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問については、小6も中3も少しずつ伸びたということがこのグラフで分かります。「自分には、よいところがありますか」という問いに対しては、小6では伸びていますが、中3では残念ながら少し下がっているという結果であります。「人の役に立つ人になりたいと思いませんか」という質問に対しては、小6も中3も伸びています。この4点を強調していくなかで、子どもの学ぶ姿や変わりゆく姿、つまり福知山の子ども様子を教職員がしっかり把握しながら、結果が少しずつ良くなることを目指し、福知山の教育に自信が持てるようにしていきたいと思っております。

その下には、市民憲章を載せています。

倉橋委員長

11月の協議会で、このことについて説明を受けてわれわれから質問や意見を申し上げたところですが、それを踏まえてこの原案を作成していただいたと思っております。この原案について、再度、御質問や御意見を申し上げます。

塩見委員

柱となる6項目が掲げられたページの左側の『確かな学力を育てる教育の推進』のところの2つ目の黒丸のところですが、「見えない学力」が特記されたことは、良いことだと思いました。

5つ目の黒丸のところの「言語環境の整備、課題解決のための思考力・判断力・表現力（話し合う力）等の育成・・・」のところ、前回は「・・・判断力・表現力」でとどまっていたのですが、今回は「・・・表現力（話し合う力）・・・」という文言が特記されています。今、コミュニケーション能力の必要性が言われていますので、話し合う力は大いに大事

だと思えます。しかしながら、私自身は「書く力」の低下を危惧しています。全国学力・学習状況調査のB問題でも決められた字数で要約して自分の考えを書き表す能力が求められています。ところが学校現場では子どもたちに「書く力」を高めようとするれば担任の労力が必要となります。ここで「・・・表現力（話し合う力）・・・」としてしまうと「書く力」がなおざりになるのではないのかなあと思いました。

右のページの『魅力ある学校・園づくりと教職員の資質能力の向上』のところですが、今年、研究指定校の研究発表会に出席させていただいたなかで、どの学校も特色がありすばらしいと思えました。各学校のがんばりがよく分かりました。そのなかで、配られる資料は数年間研究された成果のあらわれであり教師にとっては今後の教師生活において財産であり、ずっと活用できるものです。この資料を是非、活用していただきたいと思えます。また、研究指定を受けるとそれに費やす時間は計り知れません。多大な苦勞がありますが、重点教科を研究して理論的にも実践的にも力を蓄えることが出来ることはすばらしいと思えました。今後、研究指定のあり方について、中学校区ごとに統一した内容に取り組むような工夫をいただきたいと思えました。前回は「中学校区の合同研究」という文言がありました。今回は「中学校区」という文言がありません。シームレス学園構想を進めていくうえで、中学校区ごとの一貫性のある取り組みを伝えるような文言を入れてほしいなあと思いました。

最後に文言についてですが、『一人一人を大切に、個性や能力を伸ばす教育の推進』というところの三つ目の黒丸のところに「特別支援コーディネーター」とあるのは「特別支援教育コーディネーター」ではないかと思えます。

#### 足立学校教育課指導主事

「書く力」に関しましては、本当に大事なことでありと認識しております。「話し合う力」が強調されているような印象を与えてしまいましたが、「話し合う力」のもとになるのは、「書く力」であろうと考えます。決して「書く力」をないがしろにしているわけではありませんので、御理解いただければと思えます。

中学校区のブロックごとで取組んでいくことに関しましては、現在すでに、ブロックごとに小中一貫教育の連携を進め、それぞれのテーマで実践しておりますことから、あえてここで記載をしておりません。

「特別支援コーディネーター」については、ご指摘のとおり「特別支援教育コーディネーター」です。

#### 倉橋教育委員長

他に御意見、御質問はありませんか。

#### 瀬田委員

前回の協議会でこのことについて話し合いましたが、その時にせっかく作成したものが、活用されず、机の中にしまいこまれてしまうことがないようというお願いをしております。

したが、手元において活用できるような方策を用いて作成いただきありがとうございます。

ところで、『学校教育の重点』が出来上がるとこれに基づいて各学校は計画を作られるのですか。また計画の進捗状況は各学校ではどのようにして、点検されるのですか。

足立学校教育課指導主事

この重点に基づいて、各学校は学校教育計画を立て、学期ごと、年度末において総括し、改善を図ります。また、学校評議委員会の中でも内容を伝えています。

教育委員会においては、学校から取り組み状況や課題、成果を報告いただき把握しております。それに基づき、この重点の原案を加筆、修正いたします。

この重点は、いろいろな会議で活用し、引き出しのなかで眠ってしまわないようにしたいと思います。

瀬田委員

この『学校教育の重点』や各学校の教育計画が公開されていますか。保護者に『学校教育の重点』や計画をお知らせされると、子どもの学校生活への関心や見方も変わってくるのではないかと思います。

足立学校教育課指導主事

公開することはとても大事なことでと思います。『学校教育の重点』はホームページから見ていただくことが出来ます。また各学校の教育方針や目標、学校活動などは、各学校のホームページで公開しております。学校だよりを地域の方に配布している学校もあります。

瀬田委員

毎月、各学校の学校だよりを拝見しております。編集される先生方の御苦勞は大変なものであるとお察しいたしますが、みなさんに読んでいただける紙面づくりに努めていただきたいと思います。

大槻委員

保護者の立場として意見を申し上げますと、この『学校の重点』が市内のどの小中学校にも十分に浸透して、どこの学校へ行っても同じ教育が受けられる環境となることを望みます。また、『福知山の子ども姿』のページで「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対し、『あてはまる』の回答率が小学校6年生では、全国で35パーセント、福知山市では40.1パーセントに対し、中学3年生になると減少しています。授業についていけない理由から自信を喪失していることもあろうかと思えます。少しでも自分に自信を持ち、将来の進路にもよい影響をもたらすよう子どもの心が健やかに育つ学校生活を送れることを望みます。

荒木教育長

『学校教育の重点』を開いたところの左上に示された保幼小中一貫・連携教育計画（シームレス学園構想）の図をみなさんはどのように認識されていますか。この図が示す意味を

みなさんで共有するためにあえておたずねさせていただきます。

瀬田委員

私は、この構想により家庭環境はよりよくなり、地域社会も豊かになって、社会全体が上昇していくというイメージを描いています。

倉橋委員長

学校はさらに学校としての力を伸ばし、前進していくということを上向きの矢印で示しているのだと思います。

荒木教育長

いろいろな解釈ができるところではありますね。

倉橋委員長

私の方からも質問をいたします。大きく開いていただいたなかの『確かな学力を育てる教育の推進』のなかで、2つ目の黒丸の「見えない学力」とはコミュニケーション力・主体性・協調性のこの3つのことを言っているのですか。

足立学校教育課指導主事

はい、そうです。

倉橋委員長

また、『社会の変化に対応する教育の推進』の4つ目の黒丸のところの「スクールソーシャルワーカー」や「まなび生活アドバイザー」は現在、学校に実際にいらっしゃるのですか。またどのような仕事をされているのですか。

3つ目の質問は、『魅力ある学校・園づくりと教職員の資質能力向上』のところの4つ目の黒丸にある「アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」とはどういうものですか。

足立学校教育課指導主事

「スクールソーシャルワーカー」は現在、日新中学校に配属されています。スクールソーシャルワーカーは、子どもを十分に育てられない家庭への支援、問題行動をとる児童・生徒への指導や不登校の子どもの家に出向き勉強をみたりしていただいております。また市の事業により、この役割を担う「まなび・生活アドバイザー」が、配置されています。

「アプローチカリキュラム」は小1ギャップを回避するため、就学前の幼児がスムーズに小学校の生活や学習に適應できるようにするプログラムです。また「スタートカリキュラム」は入学したばかりの児童が小学校生活へ適應できるようにするためのプログラムです。福知山市内の市立、私立のどの幼稚園もまた、どの小学校もこのカリキュラムをすすめています。

荒木教育長

「まなび・生活アドバイザー」は、どの学校に配置されていますか。

坂本理事

惇明小学校と大正小学校です。

瀬田委員 『社会の変化に対応する教育の推進』の中の4つ目の黒丸の「学校をプラットフォームとした子どもの貧困対策の推進」について、どういうことかもう少し、砕いて説明をお願いします。

足立学校教育課指導主事

貧困対策において、心の安定する場所がないということから、学校もその役割を担おうということです。

荒木教育長

国の施策において、このように「学校をプラットフォームとした・・・」と掲げています。

倉橋委員長

事前に開いた協議会において、『学校教育の重点』と『社会教育の重点』を同じような雰囲気にしていただきたいと申し上げておりましたが、そのようにしていただいているように思いますし、表紙もよく分かるように仕上げていると思います。

質問や意見が出ておりますが、今後については事務局に一任するというので、これも踏まえ議第28号について決議をさせていただきます。

全委員

異議なし。

倉橋委員長

それでは、異議はないので、可決承認いたします。  
次に議第29号「平成27年度社会教育の重点について」に移ります。

## (2) 議第29号(平成27年度社会教育の重点について)

崎山次長兼生涯学習課長

まず、表紙のところは『学校の重点』に合わせて統一感のあるものにし、カラー印刷で写真も入れていきます。

開いていただいたところには、社会教育の目指すところを図式化したものと平成27年度の重点項目を載せています。今回において、『社会総がかりで目指す』の三つ目の星のところの「互助・共助による活力あるコミュニティの形成を目指す。」を一行増やしました。昨今、災害等に対応して地域の方が助け合うということが福知山市の教育目標とつながることから加えました。『園・学校』のところでは、『学校教育の重点』と連携して「家庭や地域社会と連携した食育を進める」を加えました。下の箇所『家庭』の教育の出発点のところでは、26年度は「生活習慣や豊かな心を育てる家庭教育を推進する。」であったのを今回は、「豊かな心を育てる家庭教育を推進する」に変え、「学力の基礎は基本的な生活習慣であるという家庭教育の役割を再認識する。」を加え文言の整理をいたしました。家庭の重要性が昨今言われていますので、社会教育でも積極的にPTAとの活動を通じて訴え

ていきたいと考えます。

次に右の『平成27年度の重点項目』について、1のところは、家庭の役割を再確認することが肝要であるということから文言を整理しました。2については、来年度、ユネスコの70周年により、ユネスコの提唱する教育を取り入れて地域社会と学校が連携して具体的な取り組みを進めていこうと考え、前回は学社連携であったところをESDの推進といたしました。3については、児童クラブについて少し文言の整理をしました。4については、変更ありません。5については、埋蔵文化財だけでなく歴史・文化の普及啓発ということで、文言の整理をしました。6と7についてですが、前回、公民館活動や青少年の健全育成に関わる内容が一緒になっていましたが、今回は分けて、少年補導センターに関わる内容が無かったことから補導委員さんの地道な活動を含めて1項目を新たに加え少年補導センターの役割を明記しました。8については、交流プラザの更なる施設活用を目指し、1つの項で別に明記しました。9の図書館についても開館をしたので、各分館が連携することの文言整理をしました。

次にさらに開いていただくと、『生涯学習社会の実現』、『共に幸せを生きる社会の実現』、『家庭・地域社会の教育力の向上』、『文化・文化財保護の推進』の4つの項目で具体的に各事業の重点内容をあげております。

『生涯学習社会の実現』については、目標のところは若干、文言の整理をしましたが、大きな変更はありません。その下の『1. 生涯学習の推進』のひとつ目の丸のところ、前回は「市民の声が響く生涯学習の推進」であったのを今回は「市民の声が響く生涯学習の推進、市民一人一人の自己実現と積極的な社会参画の推進」としました。2つ目のところも事業の内容が具体的に見えるように文言の整理をしました。ここには、「女性の学習活動の支援と充実」をいれました。これについては、女性の活動について、直接的に私どもが支援をしている現状にはありませんが、生涯学習の全体の取り組みのなかで推進をしていこうということからここにあげております。次の「世代間にわたる学習・ボランティアの推進」では、重点項目に掲げました『教育（ESD）』の文言をいれました。

2の「公民館活動の推進」については、社会教育の大きな役割として地域社会を担う人材の育成が大きな柱になることからひとつ目の丸のところ『学習支援』という文言を加えました。また、地域社会が学校とどうかかわるかも大きな柱となりますので、2つ目のところで『学校との連携と支援活動の推進』という文言にしました。3つ目については自己実現をはかり社会に還元していくことを示しました。4つ目については高齢者の学習機会について、前回は『共に幸せに生きる社会の実現』のところであげておりましたが、高齢者の学習活動がクローズアップされた頃とは時代も変わり、生涯学習全体のなかで考えていけばいいのではないかという思いから、そこで取り上げるよりも公民館活動のなかで高齢者大

学が実施されていることでもありますので、この部分に移しました。5つ目については、新たに交流プラザがオープンし生涯学習活動の拠点となることや、また夜久野にも生涯学習センターがありますので、これらを活用することをあげております。

3の「図書館活動の推進」については、今年度中央館が新たにオープンし、文化・情報発信のシンボルとしての役割を充実させていくことをあげております。4項目については、ジョブパークとの連携による就業支援だけでなく、他の関係機関とも連携して情報サービスを積極的に提供していくことをあげております。

次に『共に幸せを生きる社会の実現』のところですが、全体には大きな変更はありませんが、他部局との連携をあげております。

次の『家庭・地域社会の教育力の向上』については、若干の言葉の整理をしました。目標のところ「家庭は、人間形成の基礎を培う、すべての教育の出発点であり」という文言を入れました。「1. 家庭教育の推進」のところでは、ひとつ目の丸のところ『家族だんらんの日』を入れました。3つ目の丸のところは前回よりももう少し具体的な表記をしました。「2. 青少年教育の推進」では、2つ目のところは、実態に合わせた文言整理をしました。4つ目のところでは、今日的な課題をあげて文言整理をいたしました。「3. 地域社会の教育力向上を目指す活動」については、ひとつ目の丸のところ「地域の活動が子どもたちに関わることに焦点をあて、文言整理を行いました。2つ目の丸のところですが、前回は「青少年教育の推進」のところ「あげられていた放課後児童クラブについてはここに移しました。3つ目については、学校との関わりを持ちながら取組みを進めたいと考えております。4つ目については昨年、今年と災害に見舞われましたので、これを踏まえ文言の整理をしました。

『文化・文化財保護の推進』については、大きな変更としては、「2. 文化・文化財の普及・啓発、活用の推進」で資料の活用も大事ですが、資料を安全に保管し、将来に伝えていくことも大事な仕事であることから、このことも表記いたしました。

倉橋委員長

それでは、御質問、御意見はありませんか。

塩見委員

説明いただき、納得いたしました。社会教育と学校教育がしっかり繋がっている雰囲気を感じとれるものになっているなあと感じました。また、社会教育の大きな役割である家庭教育の充実がきちんと明記されていることが良いと感じました。「公民館活動の推進」で現代的課題に対応するための学習支援を公民館活動の重要な役割として明記されていることは、うれしく感じました。

気になることが2つあります。開いたところの右のところ「生涯各期のつらなところ」がありますが、ここに放課後児

童クラブがあることに違和感を覚えます。放課後児童クラブは施策の一つだと思いますので、それがここに並んでいるのは違うように思います。もしここに置かなければならないなら違う枠組みで示すのが良いのではないかと思います。もうひとつは、『社会総がかりで目指す』の3つ目の星の「互助・共助による活力・・・」とありますが、補完性の面から言えば、「自助・互助・共助・公助」の4つありますが、自助と公助は入れなくてもよいのかなあと思いました。放課後児童クラブは公助の一つかなあと思いますが、どうでしょうか。

崎山次長兼生涯学習課長

公助に頼らない社会づくりを強調しすぎているかもしれないので、もう一度整理します。

倉橋委員長

重点項目を整理していただき、項目は増えていますが分かりやすくなったと思います。

E S Dについて、国の施策ではありますが、先の校長会でユネスコから説明を受けました。難しい内容でありました。もう一度、説明いただけますでしょうか。

崎山次長兼生涯学習課長

社会とのかかわりを意識した学校教育活動だと思います。国際理解、身近な環境問題、人権を理解することが現在社会の平和の維持につながるということから有機的な関連をユネスコを通じて子どもたちや大人に気付いてもらう活動です。

荒木教育長

災害を通して学校が変わっています。ボランティア活動などを通じて人を助けあう絆が生まれています。このユネスコの活動も意味づけて子どもたちに意識を持たせ進めていきたいと思います。

瀬田委員

『社会総がかりで目指す』の「互助・共助による・・・」のところと『地域社会』の「互いに思いやり、共に助け合いながら・・・」は同じ意味合いのように思いますので、文言の整理をされたら良いのではないかと思います。

重点項目の8番目の「市民交流プラザを中心とした・・・」というところですが、旧3町にも施設がありますので、表現にひとひねりあればと思います。

塩見委員

今回はこの内容でよいのですが、来年度の作成においては、家庭教育の推進を社会教育の中にもっと重点的に進めてほしいと思います。

E S Dという言葉が『学校教育の重点』のなかにはありません。『学校教育の重点』のなかの『社会の変化に対応する教育の推進』のひとつ目の黒丸がそれを表していると思うのですが、このE S Dの言葉は表記されていません。



倉橋委員長 ESDのことは学校教育課で検討されると捉えておきます。方向性については先ほど議決させていただきましたので、この言葉を入れるか入れないかはお任せいたします。

『社会教育の重点』について他に何かありませんか。何点か意見を出していただいたなかで、事務局も検討の余地があるとお答えいただいておりますので、方向性はこれで進めていただき、文言については事務局で検討いただいた最終案にお任せするというで決議させていただきます。

全委員 異議なし。

倉橋委員長 それでは、異議はないので、可決承認いたします。次へ移る前に、5分間の休憩を入れさせていただきます。

(休憩)

倉橋委員長 それでは、再開します。  
議第30号「福知山市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について」の説明をお願いします。

(3) 議第30号(福知山市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について)

芦田次長兼学校教育課長

議案書の4ページからになります。6ページの新旧対照表を御覧ください。第10条の2第2項を削り、第10条の3で校長の代理及び代行を定める1条を加えます。また、これによりこれまでの条例番号を次へ送る改正をいたします。

倉橋委員長 このことについて、ご質問はありませんか。  
上位法の改正ではないのですね。

芦田次長兼学校教育課長

はい、そうです。

倉橋委員長 それでは、決議させていただきます。

全委員 異議なし。

倉橋委員長 それでは、異議はないので、可決承認いたします。  
次に議第31号「福知山市立公民館条例施行規則の一部を改正する規則について」の説明をお願いします。

(4) 議第31号(福知山市立公民館条例施行規則の一部を改正する規則につい

て)

田中中央公民館長 資料14ページからお願いします。今回の改正の理由については、11月に市立体育館条例の改正を教育委員会議会で提案し可決いただき、それを受けて第4回福知山市議会定例会において、提案し可決されましたことから、市立公民館条例の施行規則をこの改正に合わせるために改正をするものです。このことについては、各地域公民館館長や主事とともに市民のみなさんが使いやすくなるように協議をしてきた経過があります。

改正の内容は資料15ページの表中のとおりとなります。また、これとあわせ、第5条の公民館運営審議会の会議について、3回から2回に改めさせていただきたいと思います。これは、2回目と3回目の会議の報告内容が同じとなることからです。

倉橋委員長 質問はありませんか。

全委員 特になし。

倉橋委員長 決議させていただきます。

全委員 異議なし。

倉橋委員長 それでは、異議はないので、可決承認いたします。次に報告事項に移ります。

## 5. 教育委員会 報告・説明事項について

### (1) 後援申請の承認結果について

由里教育総務課係長 ～資料に基づき報告～

No. 7 0 第44回京都新聞「お話を絵にする」コンクール作品展

No. 7 1 中丹合唱団シルクロード演奏会

No. 7 2 第30回記念酒呑童子盃争奪柔道大会

No. 7 3 華道家元池坊福知山支部 正教授昇格・門標拝受披露花展

倉橋委員長 後援承認について、質問はありますか。

全委員 特になし。

### (2) 平成27年福知山市立幼稚園の入園募集結果について

眞下教育総務課長 それでは、資料の32ページからをお願いいたします。「平成27年度福知山市立幼稚園の入園募集結果について」でございます。

平成27年度の福知山市立幼稚園の体制は、市立幼稚園再編計画に基づき、今年度末をもって、現在休園中の大正幼稚園、遷喬幼稚園、また少数園児数が続く雀部幼稚園を閉園い

たします。

なお、3 幼稚園の閉園については、9 月定例市議会において学校設置条例の一部改正の承認を既に受けているところです。

これに伴い、平成27年度から市立幼稚園は、福知山、昭和、成仁幼稚園の3園体制になります。また、幼稚園教育の充実を目指して、3歳児保育を3園で開始することとしています。

全体の募集・応募状況の詳細については、資料に掲載したとおりでございます。

新たに開始する3歳児募集では、再編計画においては当初1クラス20人でしたが、事前に多くの問い合わせ等をいただく中で、園長とも協議を行い20人から25人に計画変更し、募集いたしました。3歳児はまだおむつの取れない子どもがクラス内で半数を占め、子どもたちに手がかかるという状況から全国的に定員を20人とするところが多いようですが、25人に増員し募集をいたしました。募集を大きく上回る状況で、3園合計で募集75人に対し、119人の応募がありました。倍率は1.58倍です。

また、4歳児についても福知山幼稚園では、募集30人に対し応募が37人、1.23倍となりました。

このため、募集に対し応募が上回ったクラスについては、12月6日の土曜日に保護者による公開抽選を行い、入園予定者を決定いたしました。4歳児において福知山幼稚園で抽選漏れになった方は、他の園での受け入れに余裕がありますので定員に達していない園への入園が可能です。しかしどうしても福知山幼稚園に入園を希望される場合は、空きがでるまでキャンセル待ちとなります。

3歳児においては、多くの方が抽選からはずれてしまいました。3通ほど抗議のメールをいただき、記名もありましたので返答をさせていただきました。丹波市の子ども園へ通わせるという声もあるように聞いておりますが、今後の推移を見ていきたいと思っております。

倉橋委員長

このことについて、御質問、御意見はありませんか。

大槻委員

3歳児についてはどの園も抽選をされていますが、例えば5歳児に兄弟がいて、抽選にはずれて同じ園に通えない状況が起きませんでしたか。

眞下教育課長

このことについては、資料33ページを御覧下さい。募集案内の中に優先枠があることを明記しております。募集時にはこのことを了承されて応募いただくことについて、署名捺印をいただいております。「既に兄弟が申込園の4歳児クラスに在籍している幼児」等の応募人数は福知山幼稚園4歳児で1人、3歳児で9人、昭和幼稚園3歳児で6人、成仁幼稚園3歳児で3人ありました。いずれもこの方々は優先枠により抽選は行いませんでした。先ほど申し上げた抗議のメール

には「優先枠があることはおかしい」という内容もありました。しかし、今年についてははっきり募集時に伝えておりますので、このことについて理解いただいたうえで、応募いただいているものと返答させていただいております。

瀬田委員

募集・応募状況について、26年度と27年度の比較を見ますと5歳児では福知山幼稚園、成仁幼稚園とも充足率が26年度よりも27年度の方が大幅に上がっております。これは、事務局の御努力によるものだと理解します。しかしながら、昭和幼稚園については、平成26年度は64.3パーセントであったのが27年度は45.7パーセントに下がっております。これについては、分析をされていますか。

眞下教育総務課長

まず、福知山幼稚園については、募集人数が昨年度は70人であったのが今年度35人となった募集枠の違いによるものです。昭和幼稚園については、応募された方の詳細は把握しておりませんが、5歳児から入園される子どもは、従来から少ない状況です。これまでは、4歳児から5歳児に上がる段階で、改めて応募いただくこととしておりましたが、今回からは卒園までの保育を保障していくことから再度、応募いただく必要がなくなったことも一因であるかもしれません。

倉橋委員長

3歳児の応募が多かったということは、3年間の保育が保障されるからということなのでしょうか。

眞下教育総務課長

それもあるかと思います。3歳児は定員が25人ですが、4歳児から入れようと思えば、募集の枠が5人しかありませんので、このことを見越せば、3歳児から入園を希望される方もあったかもしれません。ただ、昭和幼稚園は、4歳児・5歳児が2クラスずつあるので、余裕はあります。また、園長から話を聞く中で、3歳や4歳になれば園に通わせたいと考える家庭も多いようで、子どもを家で見とおられた方の掘り起こしになったかもしれません。

荒木教育長

3歳児で入園した子どもは卒園まで保育の保証がされることは、募集の書類に記してあったのですか。

眞下教育総務課長

書いてはおりませんが、事前の説明会で話をしました。来年以降については、募集時にしっかり明記をしていきます。

倉橋委員長

3・4歳児の兄弟姉妹で入園したい人はありましたか。

眞下教育総務課長

今回はありませんでした。このようなことがある場合は、まず4歳児で抽選を行い、ここで通れば、3歳児は優先枠で入園できることを事前に園長とも申し合わせをしておりました。

倉橋委員長

他に何かありませんか。

全委員 特になし。

倉橋委員長 来年度も募集に関わっては、また検討いただくこともあろうかと思しますので、よろしく申し上げます。  
次に「平成27年福知山成人式について」申し上げます。

### (3) 平成27年福知山成人式について

崎山次長兼生涯学習課長

資料35ページを御覧下さい。

成人式については、例年どおり大きな変更はありません。

新成人対象者は、808人いらっしゃいます。例年の出席率から600人から650人の出席者があるかと思われます。

開催日時は、平成27年1月11日の日曜日で、午後1時30分から受付を行い2時から開式です。場所は三段池公園総合体育館のメインアリーナです。式次第は、基本的に例年どおりで、資料のとおりです。各高校からボランティアを募り18人の方にお手伝いをいただきます。

倉橋委員長 御質問はありますか。

荒木教育長 ボランティアの方に御礼はありますか。

崎山次長兼生涯学習課長

特には聞いておりませんが、確認させていただきます。

荒木教育長 お茶について、説明をお願いします。

崎山次長兼生涯学習課長

表千家さんにお茶の接待をいただいておりますが、今回からは、無くなります。

倉橋委員長 他に何かありますか。

全委員 特になし

## 6. 閉会

倉橋委員長が閉会を宣言。